

第4回遍フォーラム「歴史資料の情報資源化と活用」 ～地域文化イノベーションの創出をめざして～

日 時： 2010年10月31日(日) 10:30～16:30
場 所： 金沢21世紀美術館 シアター21 (石川県金沢市広坂1丁目2-1)
定 員： 先着 120名 参加費： 無料
申込先： 遍日々2010サイト http://amane-project.jp/amane_days/
主 催： 北陸先端科学技術大学院大学 遍プロジェクト
お問い合わせ： Email: info@amane-project.jp Tel: 090-2037-2701

(午前) 基調講演： 東京大学史料編纂所社会連携研究部門 石川徹也 特任教授

「史料情報の提供から歴史知識の発見・集積に向けて」

「地デジ」化、電子書籍(e-Book)の進展、i-Padをはじめとする多様なUbiquitous端末の普及、そしてe-commerce、Twitter等をはじめとするInternetの多様な利用は、正に「情報流通・コミュニケーション革命」(情報革命)そのものであります。

“地域文化イノベーション”のために、この「情報革命」の機会を千載一遇として“参画する”ことは必須と考えます。当、シンポジウムの目指す“歴史資料の情報資源化”は、正に、この参画への呼び掛けであろう。では、具体的には“何をどう行うのが効果的か?” “言うは易”で、なかなか難しい課題であります。私は、現在、石川県立図書館の協力の下に『石川県史』を対象に、編纂の対象になった原史料を含め、Net.検索を可能とするシステム化の研究を推進しています。このプロジェクトをご紹介しますことで、当シンポジウムのテーマを考えるきっかけになればと思います。



(午後) 報告・パネルディスカッション：「～地域文化イノベーションの創出をめざして～」



金沢美術工芸大学大学院 森 仁史 教授

「玉の磨き方—資料・調査・資産—」

世の中にあるのは最初から輝いている資料や作品ばかりではない。地域に連なる資料をいかにして輝かせるかには方法がある。これによって、資料がデータとなり、構想を支え広げる。演者の体験した松戸市での事例や現在進行中の金沢美大での調査に即してその手法、手段を論じたい。

金沢学院大 美術文化学部文化財学科 見瀬和雄 教授

「古文書調査に従事して—史料の保存・活用の現場から—」

古文書は地域社会の情報の宝庫である。まだまだ存在の知られていない古文書はある。また、存在が確認されながら、整理の手が着かない古文書も多い。こうした古文書を整理し、目録を作成して、そこから学問的乃至地域活性化にとっての有益な情報を引き出していく作業は重要でありながら、なかなか時間と労力と経費を要する大変な事業である。この事業を進める上で考えるべき問題点を整理し、今後の古文書整理事業の展望について私見を申し述べたい。



金沢大学 資料館 古畑 徹 教授

「金沢大学資料館の概要とヴァーチャル・ミュージアム構想」

多くの大学には大学博物館が存在している。金沢大学にも資料館という施設があり、その機能を担っているが、学内外にあまり知られておらず、また課題も多い。この金沢大学資料館の現状と課題をお話するとともに、それを克服する一つの方法として新たにスタートしたヴァーチャル・ミュージアム構想のあらましについても述べる。

石川県商工労働部産業政策課 野見佳賢 氏

「石川県新情報書府事業の概要と展望 (仮)」

コーディネーター：北陸先端科学技術大学院大学 堀井 洋